

この史代『この世界の片隅に』 における手紙

日本のチェーンメール史の一コマとしての考察

丸山 泰明氏

神奈川大学日本常民文化研究所 所員
国際日本学部 准教授

日時：2021年2月17日(水)17:30～19:00

会場：Zoomミーティング 【開場：17:15】

申込方法：2月15日(月)12:00までに、ご氏名とご所属を明記し、jomin-kenkyukai@kanagawa-u.ac.jpまでメールをお送りください。追って参加ID/PWを送信いたします。

この史代『この世界の片隅に』 における手紙

日本のチェーンメール史の一コマとしての考察

この史代のマンガ『この世界の片隅に』の中巻には、いわゆる「不幸の手紙」の方式により平和が来ることを願う手紙で、主人公の義姉が鼻をかむシーンがある。このような手紙は太平洋戦争の戦時下に実在し、人々のあいだで書き送られていた。そしてこのシーンは物語において非常に大きな意味をもち、下巻の最終回「しあはせの手紙」と呼応している。

本発表では、日本のチェーンメールの歴史について郵便メディアと人間の関係を問うために民俗学的研究を行ってきた立場から、これらの手紙の意味を、史実と物語世界のあいだを往還しながら読み解きたい。